

手賀沼通信(第328号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

今月は先月に続いて弟からの寄稿文と手賀沼通信91号の一部の記事の再掲載です。

特別寄稿

朧(おぼろ)月夜(私の懐かしい歌8)

新田自然

- 1 菜の花畑に入日薄れ 見渡す山の端霞ふかし
春風そよ吹く空を見れば 夕月かかりてにほひ淡し
- 2 里わの火影も森の色も 田中の小路をたどる人も
蛙のなくねもかねの音も さながら霞める朧月夜

(当時の教科書がないので、どのような字を当てていたのかわからない。歌詞の表記方法はネットで多くの解説文に載っている表記を使用した。)

書いていて、私の懐かしい歌のナンバーワンは、この歌ではなかったかと思うようになった。子供のころ、どこかで感じた季節感があり、風景がある。作詞高野辰之、作曲岡野貞一になる一連の唱歌は、この二人でなくては出せない何かがある。どの曲も不思議な懐かしみをもって思い出されるのだ。明治末から大正初期にかけて尋常小学校唱歌集に取り入れられたもので、「日の丸の旗」(1年用)、「紅葉」(2年用)、「春が来た」(3年用)、「春の小川」(4年用)、「故郷(ふるさと)」(6年用)などがある。

どの歌が好きかと問えば、多くの人は「故郷」を挙げるようだが、私はこの「朧月夜」が最も懐かしくて好きな歌だ。曲感はどちらも素晴らしいのだが、この歌詞には季節感、絵画性、宇宙観まであって面白い、それになにより菜の花が好きなからかもしれない。

長野駅からJR飯山線に乗ると、蛇行する千曲

川に沿って列車は北上する。もう20年以上も前のことだ、飯山という町で地元出身の画家の個展があるというので、妻と見に行ったことがあった。飯山線はカーブの多い路線で列車は右に左に振られる、途中「替佐(かえさ)」という駅があって列車が到着するとホームに「故郷」の曲が流れてきた。このあたりが高野先生の出身地でもあるそうだ。この北信地方は菜種油を取るために菜の花畑が広がっていて、先生の脳裏に刻まれていたのだろう。このあたりは野沢菜の産地でもあり、これも黄色い花をつける。それらのイメージが重なって農村風景が浮かび上がる。くだんの画伯の絵にも菜の花畑がいっぱい出てきた。



おぼろ月夜の館 班山(高野辰之の号)文庫
(長野県湯沢温泉村)

なんとなく歌ってきたが、いざ歌詞を書き綴ってみると、いくつかの面白い点に巡り会えた。

まずこの歌の題名は「朧月夜」であるが、何人かの人が「菜の花畑」と記憶していたことだ。歌いだしの「菜の花」の印象が強烈で、黄色い花やその香りがむせるように強く風に流れてくる。誰もがこのことを感じるはずだ、主題の「朧月夜」を食ってしまって、「菜の花」はこの歌の主役になっているような気がする。

そこで気になるのが、末尾の「にほひ」である。古語でいう「にほひ」は美しい色合いをいうこと

が多く、嗅覚の「匂い」としてはあまり使われな
いという。

「いろはにほへと ちりぬるを…＝色は匂えど
散りぬるを…」(いろは歌)

「あおによし奈良の都は咲く花のにほふがごと
くいまさかりなり」(万葉集)

「卯の花の匂う垣根に 時鳥早も来鳴きて」
(佐々木信綱)

「敷島の大和心をひと問はば朝日に匂ふ山桜
花」(本居宣長)

(漢字の使い方に元歌との誤用があるかもし
れない)

という歌などがあって、美しく咲き誇っている
という意味で使われているようだ。いま、われわれ
は「匂い」を視覚の意味では使わず、嗅覚として
理解している。たしかに卯の花も山桜も美しく
咲くが、あまり強い匂いはない。この歌の菜の花
はなんとなく「咲き具合」より「匂い」の方が勝
ってように感じるのは、菜の花の強烈な個性にあ
るのかもしれない。日没後の菜の花畑を、嗅覚の
嗅覚の「匂い」が支配している、と読んではいけ
ないのだろうか、芭蕉の巻いた有名な連句に、弟
子の凡兆のこんな発句もある。

「市中（いちなかは）は物のにほひや夏の月」

夕月の色も淡い感じだ、とも読めるし、全体の
風景の色合いも淡いとも読める。

二番の歌詞も面白い。一番の時からすれば、少
し時間の経過があるようだ。夕日が落ちて里の
家々の灯りがはっきり感じられるようになり、森
の影も濃さを増し、農作業を終えて家路につく人
も判別でき難くなっている。そういえば蛙の鳴く
声や鐘の音までも霞んで、すべてが霞すんでいる
朧月夜だ、というその例示が面白い、風景が霞ん
でいるのはよくわかるが「蛙のなくね」「かねの音
も」と、音まで霞めている。それらを「さながら
霞めて」おぼろ月がぼんやり見えると。

朧月夜がどんな月なのか、私は霞がかかった満
月とイメージしていたがそうではないという説が
あるようだ、古語では夕月は上弦の月のだそうで、
夕方に見ることが出来るのは月齢1～15の
間だけなのだそうである。

まあそんなことはどうでもよい、そこまで詮索
しなくともよい、これは辰之先生のふるさとの「心

象風景」と思えばよいのだ。「♪さながらかすめる
朧月夜…」と、気持ちよく歌えればよい。

この歌の思い出はいろいろある。元の会社の名
古屋支店時代のこと、入社してまだ数年にしかな
らない業務部門の平社員の私は、招かれて営業部
門のキャンペーンの打ち上げの催しに参加してい
た。そこの部長は「鬼の〇〇」と言われ、いつも
苦虫をかみしめているような顔つきに見え、私に
は近寄ることさえ憚られる存在であった。会議を
終え、酒が入り、歌も入って座が盛り上がるにし
たがい、司会が「次は部長にお願いします」と振
ったのだ、座は一瞬静まった。部長はたぶん軍歌
か民謡でもやるかなと思っていたら、おもむろに
立ち上がって「♪菜の花畑に…」とやりだしたの
だ。誰も手拍子することもなく聴き入ってしまった。
それ以来、私の鬼部長の印象が変わった。

これは新入社員であった福岡支店のことだ、休
みの日には九州の山々に出かけた。久留米から大
分に向かう国鉄久大線に「豊後森」という小さな
駅がある。そこに「万年山(はね山)」という 1200m
くらいの山がある。ミヤマキリシマの美しい山で
溶岩台地の急な崖の上にあった、そこから直下
に見下ろした菜の花畑とレンゲ畑のパッチワークの
ような景色は忘れられない。山を取り巻くように
川があって、鉄道がそれにつかず離れずカーブを
描き、由布院から下って大分に至る、まだ蒸気機
関車が走っていた時代で、遠くに由布岳や九重連
山などが霞んでいた。カメラなどない時代の、私
の目に焼き付いた最高の風景である。

この歌のすばらしさは岡野貞一氏の作曲による
ところが大きい。鳥取市出身、東京音楽学校卒の
オルガニスト、文部省の尋常小学校唱歌編纂委員
となり高野辰之氏と出会い、そのコンビによって
名曲が生まれた。

オルガニストの作曲した歌は「早春賦」(曲 中
田章・詞 吉丸一昌)、「椰子の実」(曲

大中寅二・詞 島崎藤村)、「主よ人の望みの喜
びよ」(J S バッハ)、ブルックナーの交響曲など、
独特のなめらかで穏やかな感じがする。

いまや菜の花は満開である。日本の農村の風景
は変わってしまったが、歌の中の風景は変わらな
い。この歌を唄っていると、わが国では、もう見

ることができなくなってしまったレンゲ畑までが鮮やかに蘇ってくる。

書いていううちに「朧月夜」が霞んでしまったが、お許し願いたい。いずれにしても、私の最も懐かしい歌である。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在大阪で万国博覧会が開催されています。見に行きたいのですが、とても体力がもちません。もっぱらテレビのニュースで楽しんでいます。

1970年の大阪万博と2005年愛知万博には行くことができました。前回の大阪万博の記録はありませんが、愛知万博については手賀沼通信に見物記を書いています。

今の大阪万博の見物記を書くことができないので、愛知万博の記録でお茶を濁すことにいたします。申し訳ありません。

前回の万博は、20年前の2005年3月25日から9月25日まで、「愛・地球博」として愛知県の長久手会場と瀬戸会場で開催されました。

2005年10月の手賀沼通信第91号に載せた記事です。

愛・地球博に行ってきた

愛・地球博は3月25日（金）から9月25日（日）までの185日間、愛知県の長久手会場と瀬戸会場で開催されました。



ロープウェイから見た会場の一部

阪万博の6422万人にはおよびませんが、つくば博の2033万人を上回りました。開幕日の入場者数は約4万3千人（期間中最少）でしたが、5月に入ってから人気が出始め、1日あたりの最多入場者数は9月18日（日）には約28万1千

期間中の入場者数は約2205万人、1日の平均入場者数は約12万人でした。大

人を越えました。いつものとおり終わりに近づくほど人出が増え9月は大ブームになりました。

今回の愛・地球博の特徴は環境への取り組みです。「愛・地球博の公式ホームページ」から「環境への取り組み」についての記述をご紹介します。

「愛・地球博（愛知万博）では、メインテーマに『自然の叡智』を、またサブテーマの一つに『循環型社会』を掲げています。環境に配慮した会場作りから、環境負荷の少ない交通手段や新エネルギー、楽しみながら環境について学ぶ機会の提供など、ご来場のみなさまに環境に配慮したさまざまな施設や活動・展示などを会場の至るところでご紹介してまいります。」

8月29、30日、クラブツーリズムのツアーで家内と愛・地球博に行ってきました。8月からだんだん混雑が激しくなって、人気パビリオンは数時間待ちという話は聞いていたのですが、世紀の祭典、行くだけ行ってみようと思い立ったのです。

ツアーは7時23分の新幹線で豊橋まで、そこ



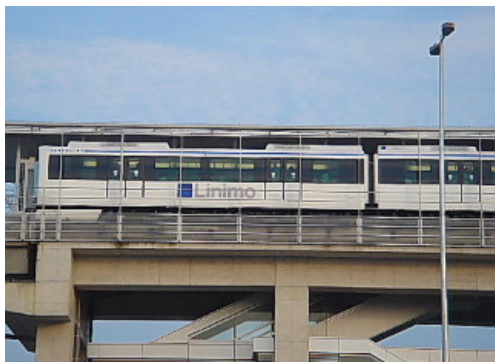
からはバスで会場まで行き、6～7時間見物して浜名湖ロイヤルホテルで宿泊とい

三菱未来館前の人出

うスケジュールです。バスに乗る時間は1日当たり2時間半、夕食は8時過ぎという強行軍でした。翌日も6～7時間の見物時間が組み込まれていました。費用は入場料込みで41,800円、ただし昼食は各自負担です。

人気パビリオンは1日あたり2パビリオンまでを事前予約することができますが、そのためには入場券の番号が必要です。ところがこのツアーは入場券は当日にしかもらえず事前の予約はできません。2日目は当日予約のチャンスがありましたが、まずは並んで待つというのがこのツアーでの入場手段でした。当日の入場者は29日が17万4千人、30日が15万4千人と大混雑、29日の入場者数は開幕以来当日まででは4番目の混雑でした。

今回の万博の特徴は「環境への取り組み」となっていますが、もう一つの特徴は「待つこと」だと思います。35年前の大阪万博や20年前のつくば科学万博と違って会場に入る前に、危険物や市販のお弁当、ペットボトル、ビン、カンなどが持ち込み禁止のため、入場者の持ちものの検査があります。人手で一人一人かばんを開けて見るため時間がかかります。市販の弁当が禁止ということは食堂に入るか、会場内で販売しているものを買わなければならない、食事をするために待つ必要があります。パビリオン待ちの間に食事をとることができずお昼抜きで見たいものを見たという人もいました。人気パビリオンの数が少ないため人出が集中します。大阪やつくばの万博に比べると企業のパビリオンがかなり少ないのに気がつきました。女性トイレの混雑も目立ちました。万博グッズや万博のお菓子を売っている場所は身動きでき



会場への交通手段リニモ

の作戦は待ち時間の長いパビリオンを避け、並ばないですむところだけを見ようということでした。そのため外国のパビリオンまわりに終始しました。外国のパビリオンでもドイツ館やスペイン館など待ち時間の長い所はパスしました。私たちの最長の待ち時間は10分でした。時間の割には数をこなしたという感じです。

よかったのは愛・地球博のテーマどおり自然がほとんどそのまま残されていて、緑豊かな万博だったことです。会場までの交通機関のリニモや会場をまたぐロープウェイからは美しい会場が見渡せました。会場内のメインストリートで空中回廊の「グローバル・ループ」は自然環境に配慮した構造で、道路面は歩きやすく人に優しい木でできていました。しまってあった大阪万博とつくば万博のガイドブックを取り出して比べてみましたが、手付かずの自然を残しているのは愛・地球博だけ

でした。自然の環境に配慮した万博という主旨は守られていたと思います。

2日間ややくたびれましたが一つのイベントをこなしたという達成感？がありました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 手賀沼通信ブログ抜粋

大阪・関西万博が開幕した（NO. 1894） （令和7年4月13日）

2025年4月13日大阪・関西万博が大阪湾の人工島・夢洲で開幕しました。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国と地域、7国際機関が参加して、4月13日から10月13日までの183日間にわたって開催されます。

日本で万博が開催されるのは6度目です。大規模な登録博は1970年の大阪万博、2005年の愛知万博に続いて3度目になります。

それ以外に目的を絞った認定博が、1975年の沖縄海洋博、1985年のつくば科学博、1990年の大阪花博と3回開催されています。

私は沖縄海洋博以外は見物しています。とくにつくば博は常磐線で我孫子から数駅の近くで行われたため何度も見に行きました。ただ今回の大阪万博は見物する体力がなく不参加です。テレビで楽しみたいと考えています。

昨日の4月12日の午後、大阪万博の開会式が会場内の大催事場「シャインハット」で、天皇・皇后両陛下と秋篠宮ご夫妻が臨席して開催されました。所要時間はオリンピックと違って選手のパレードなどがなかったため、1時間ちょっとと比較的短時間でした。

参加国などの旗を旗手の高校生が持って入場しました。参加者のスピーチが多かった感じでした。最後に天皇陛下のお言葉で終わりました。

アトラクションはブレイキン、コブクロの歌、尾上菊之助らの歌舞伎、高校生の歌とダンスなどが続きました。

前回の万博は「太陽の塔」が目を引きましたが、今回は会場を囲む全長2キロの木造建築「大屋根リング」です。「空飛ぶクルマ」や「i p s心臓」もあります。会期中の来場者数を2820万人と想定していますがはたしてどうなりますか。